



みなさまのご意見をお聞かせください

核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）ワークショップのご案内

さいたま市PRキャラクター つなが竜ヌウ

1 はじめに

- ・平素より、道路行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
- ・核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）は、圏央道と東京外かく環状道路の概ね中間に位置する道路として計画されています。
- ・当該道路整備の計画検討にあたり、複数案（ルート帯・主たる構造）を示し、複数案の評価項目案について、地域のみなさまにご意見を伺っているところです。
- ・本調査は、事業者様にご意見を伺うものです。
- ・みなさまのご意見を踏まえ、概略計画の検討を進めていきます。
- ・ご多忙の折、大変恐縮ではありますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。
- ・核都市広域幹線道路の詳細な検討状況は、下記QRコードのポータルサイトよりご確認ください。



◀ポータルサイトはこちら

お問い合わせ

- 実施主体**
- ・複数案（ルート帯・主たる構造）について
 - ・複数案を比較評価する際の重視すべき評価項目案について

ワークショップ応募締め切り

令和7年12月23日(火)

回答方法（①・②のどちらかでご回答ください）※1分程度

①「電話・メール・FAX」で回答する場合…下記電話番号・メールアドレスへご回答ください。

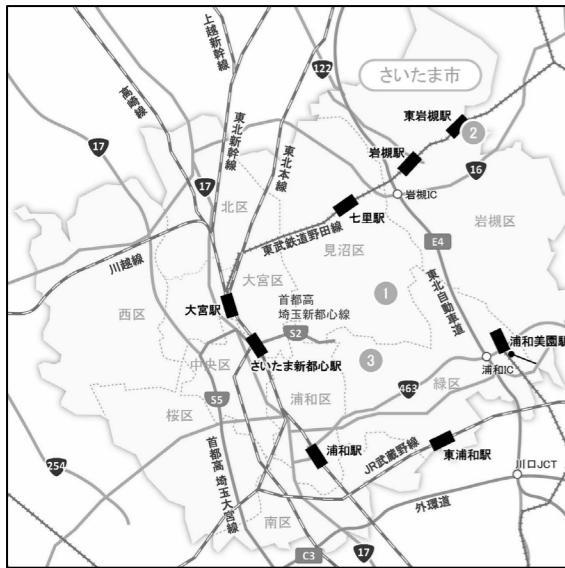


②「Web」で回答する場合…右記のQRコードからご回答いただき、送信してください。

- 電話番号：03-3668-1014（結城）（FAX：03-5695-1883）
- メールアドレス：r6_omiya_pro@ctie.co.jp
- ▶会社名、部署・課名、役職名、氏名、電話番号、参加希望の会場名をご連絡ください。

ワークショップ実施概要

▶ワークショップ実施会場 位置図



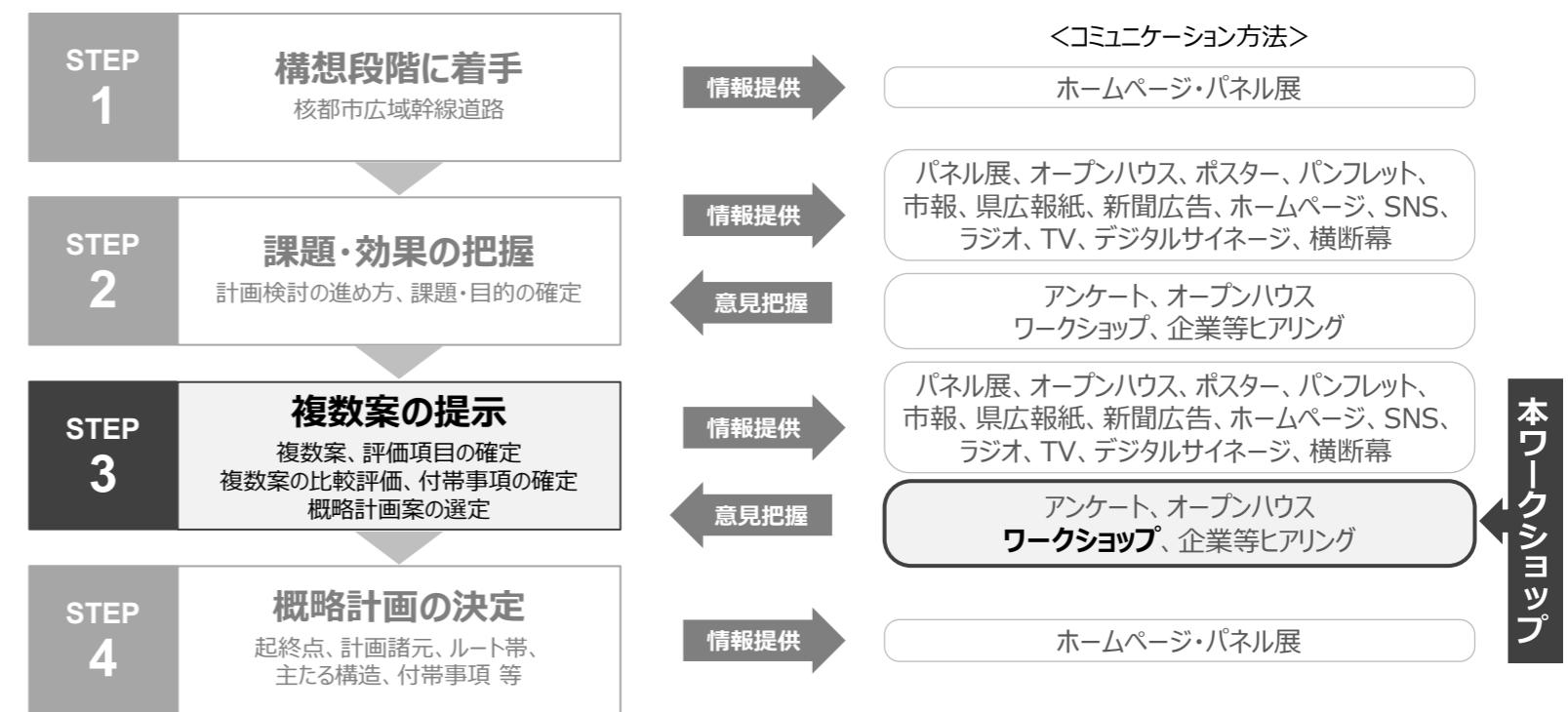
▶ワークショップ実施会場・日時

No.	ワークショップ会場	実施日時
1	片柳コミュニティセンター (見沼区片柳)	R8.01.28 (水) 14:00～
2	ふれあいプラザいわつき (岩槻区東岩槻)	R8.01.30 (金) 18:00～
3	シニアふれあいセンター和楽荘 (緑区三室)	R8.02.02 (月) 10:00～

※本事業は、環境影響評価法(平成9年法律第81号)に基づく計画段階環境配慮書(配慮書)の対象事業となるため、この意見聴取は環境影響評価法に基づく配慮書の案についての意見聴取の手続きを兼ねています。

2 本ワークショップの位置づけ

本ワークショップは、「STEP3:複数案の提示」に該当します。



3 課題・目的の把握

「課題・目的」にもとづいた「複数案（ルート帯・主たる構造）の選定の視点」を踏まえ、2つの案を設定しました。

	課題・目的	複数案(ルート帯・主たる構造)の選定の視点
政策目標	1.渋滞	・幹線道路や主要道路の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性を向上させる
	2.事故	・幹線道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、交通事故を減少させる
	3.企業進出・人口増加・拠点間連携	・大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する
	4.生活環境	・沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る
	5.災害	・豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る
	6.医療連携	・さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する
	7.観光	・さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援する
配慮すべき事項	8.農・自然環境・景観	・見沼田んぼをはじめとした沿線地域の農業の営みを育むとともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する
	9.沿道家屋や周辺施設等への影響	・事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項等を確認する
	10.経済性	・事業費を確認する

地域や道路の課題解消のため、2つの案を設定しました

案① 北側ルート

埼玉新都心線・さいたま見沼ICと東北道を最短で結ぶルート帯
比較的見沼田んぼを通過する延長が短く、環境等の影響が抑えられる

案② 南側ルート

住宅地を極力回避した支障物件が少ないルート帯
比較的民家への影響を抑えられる

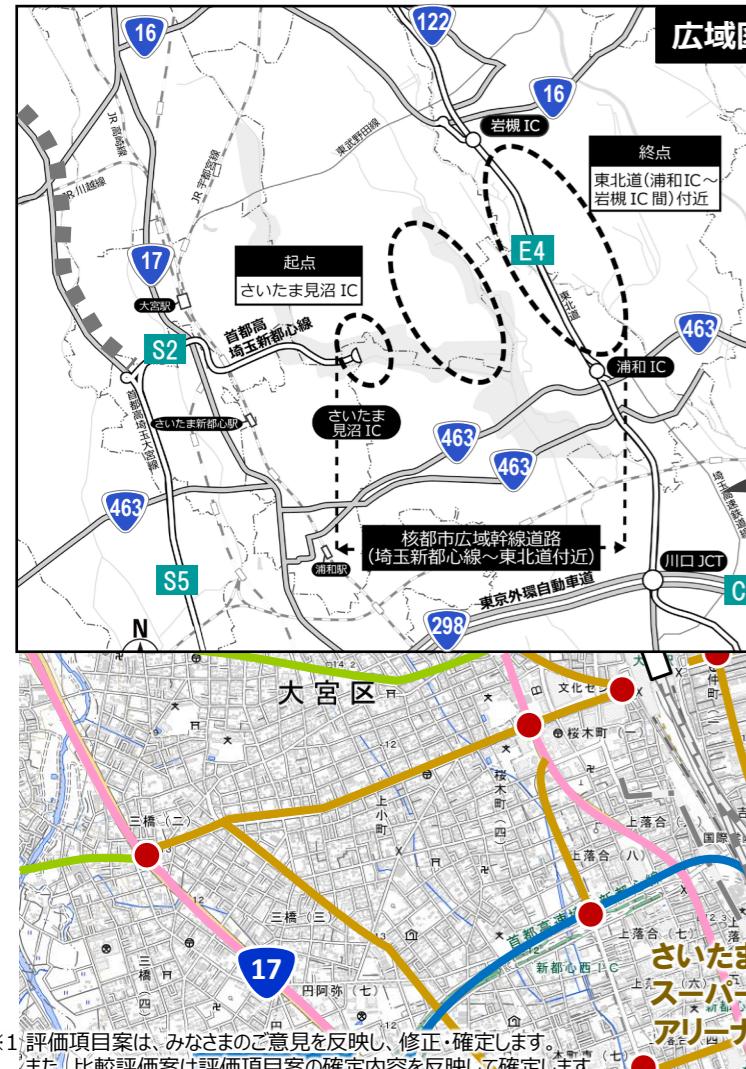


裏ページに
つづくよ！

さいたま市PRキャラクター
つなが竜ヌウ

4 複数案（ルート案・主たる構造案）の提示

「課題・目的」にもとに複数案を評価する評価項目案を設定し、案①・案②を比較評価しました。

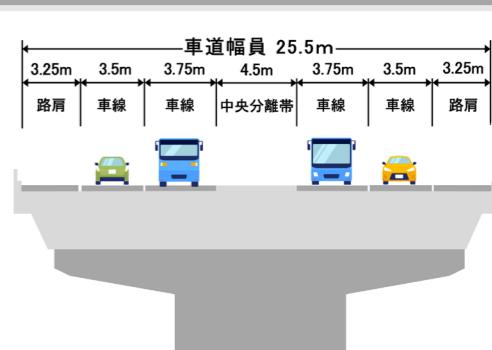


埼玉新都心線・さいたま見沼ICと東北道を最短で結ぶルート帯

比較的見沼田んぼを通過する延長が短く、環境等の影響が抑えられる

住宅地を極力回避した支障物件が少ないルート帯

比較的民家への影響を抑えられる



※1 評価項目案は、みなさまのご意見を反映し、修正・確定します。
また、比較評価案は評価項目案の確定内容を反映して確定します。

課題・目的

評価項目案※1

案① 北側ルート

案② 南側ルート

政策目標	評価項目案※1	案① 北側ルート	
		案② 南側ルート	
1.渋滞	①外環道の混雑の緩和 ②主要道路（国道16号、国道463号）の混雑の緩和 ③沿線地域の主要道路（県道等）の混雑の緩和	・外環道の交通が転換し、外環道の混雑が緩和する ・国道16号や国道463号の交通が転換し、混雑が緩和する ・県道さいたま春日部線等の東西方向に連絡する周辺主要道路の交通が転換し、混雑が緩和する	
2.事故	④周辺地域の主要な道路における交通事故の減少	・国道16号や国道463号の交通が転換し、事故が減少する	
3.企業進出・人口増加・拠点間連携	⑤大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ交通軸の形成	・大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ自動車専用道路のネットワークが形成	
4.生活環境	⑥沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通の減少	・県道さいたま春日部線等の東西方向に連絡する周辺主要道路の交通が転換し、混雑が緩和する ・それにより、沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通が周辺主要道路に転換し、生活道路の抜け道交通が減少する	
5.災害	⑦外環道、圏央道の通行止め時の代替路	・外環道、圏央道が事故等で通行止めの場合に代替路として機能する	
6.医療連携	⑧さいたま市内の高次医療施設への速達性の向上	・美園地区から、さいたま赤十字病院等の高次医療施設への所要時間が短縮するため、救急医療活動を支援する	
7.観光	⑨大規模イベント開催施設へのアクセス性の向上	・さいたまスパーアリーナや埼玉スタジアム等の大規模イベント施設へのアクセス性が向上する	
8.農業・自然環境・景観	⑩農業環境への影響	・さいたま見沼ICから見沼田んぼを通過する延長が案②に比べて短いため、農業環境への影響が案②より小さい	・さいたま見沼ICから見沼田んぼを通過する延長が案①に比べて長いため、農業環境への影響が案①より大きい
	⑪自然環境や景観等への影響	・さいたま見沼ICから見沼田んぼを通過する延長が案②に比べて短いため、自然環境や景観、文化財等への影響が案②より小さい	・さいたま見沼ICから見沼田んぼを通過する延長が案①に比べて長く、見沼田んぼ地域に近いため、自然環境や景観、文化財等への影響が案①より大きい
9.沿道家屋や周辺施設等への影響	⑫沿道家屋や周辺施設等への影響	・案②に比べ住宅地が多く、大宮共立病院や浦和競馬・野田トレーニングセンターが立地する地域を通過するため、案②より影響は大きい	・案①に比べ住宅地が少ない地域を通過するため、案①より影響は小さい
	⑬工事中の影響	・東北道JCT周辺整備時に市道3502号線の橋梁（新切橋）の架け替えが必要となるが、工事に支障となる物が案②に比べて少ないため、案②より影響が小さい	・東北道JCT周辺整備時に県道新方須賀さいたま線の橋梁（高畠陸橋）架け替え、および南部配水場が立地する地域を通過し、工事にあたり、送水管の仮移設が必要となり、工事に支障となる物が案①に比べて多いため、案①より影響が大きい
10.経済性	⑭事業費	2,600～2,700億円	2,800～2,900億円